

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスらびす		
○保護者評価実施期間	令和8年12月22日		令和8年2月22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和8年2月20日		令和8年3月11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別の療育 (利用者それぞれに合わせたオーダーメイドの療育)	・机上でのプリントを使った社会性やコミュニケーションの学びから、小集団、集団へと学びをい生かせるような療育を心がけている。 ・個別だからこその子どもたちのその日の体調や気持ちに合わせて、臨機応変に内容の変更をしている。 ・思春期の子どもへの支援。性教育を適切な時期に療育に組み込んでいる。低学年でもプライベートゾーンなどの話をし、自分を大切にすることをお伝えしている。	・活動内容は個別で提供しているので、支援者との信頼関係が何よりも大事になります。話しやすい雰囲気や環境も大切なので、安心して話しができるようにお子さんに合わせた個別の場所なども工夫していく必要があります(構造化や再構造化)。また、個別内容も、職員間で情報共有し、支援に反映させていく。
2	・子どもたちの興味関心の強いパソコン、タブレット、ニンテンドースイッチなどを取り入れた療育 (対人関係やコミュニケーション、機能向上の療育)	・保護者の皆様から、オンラインのゲームや友達とのゲームでのトラブルの相談が近年とても多くなっている。ゲーム上でのマナーややり取りなど実際に一緒にゲームをやりながら学んでいる。 ・感情のコントロールや切り替えなどのタイミングでどのようにやるのかなどその場で具体的に療育することができる。	・長きにわたりゲームでの支援をしていて、機能面の発達にとっても重要な要素を持つコントローラーのすごさを感じている。指先の動きや目の動き、椅子に座る体幹など好きだからこそ苦手な動きを頑張って習得しようとしている。パソコンではさらに指の動きとマウスの動きの連動が活発になるので、同じゲームでもパソコンを多く取り入れていきたい。
3	・送迎時など保護者と家庭や学校などの様子を共有でき、支援内容に生かすことができる。	・事業所での活動の様子や学校からの引継ぎ内容などを話したり、保護者の悩みや家庭での様子を気軽に話ができるように心がけている。不安が大きいつきは面談を実施するなど、保護者に寄り添い不安を解消できるようにしている。また、事業所の携帯がスマートフォンになったことでLINEでの保護者とのやり取りも増えスムーズに支援に入ることが出来る。	・次年度は、保護者参観などを計画し、実際の支援の様子やお子さんの様子を見ながら話しをして、共有を深めていきたい。 ・悩みに沿ったテーマで茶話会のほかに学習会のようなことも今後ニーズがあるのではないかとと思うので、そのような取り組みも考えていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動スペースの確保	・活動スペースは体格の大きな中高生のために、そこまで細かい構造化ではない。	・構造化の工夫や移動できるよう配置を工夫する必要がある。安全面に配慮しながら考えていきたい。 ・刺激に弱いお子さんのため、活動に負担のかからないような場所を作っていく。
2	・非常時等の対応	・保護者の皆様に面談時に話をしていたが、支援の内容の話が長くなってしまい、非常時の話が印象に残りにくい。 ・茶話会などで来れる保護者も限られる。	・非常時マニュアルの話をする機会を設ける。 ・何回かに分けて説明会を実施していく。
3	・保護者同士の交流や子育ての助言の機会	・茶話会においては、仕事をしている保護者の方も多いため、参加をしたくてもできない状況がある。	・できるだけ早めにお知らせをしたり、グループ相談や事業所での研修会の開催など、保護者が顔を合わせる機会がもてるようにしていく。